

【ハ】(名)「汗」可汗カハ、は、鮮卑ビ、柔然突厥ツ、回紇ハ、蒙古マ、北方民族の君の称号。【注】蒙古古語Khaŋan(皇帝)の音訳として「汗」。

【ハカ】助動詞として目的語と述語構造の動詞の前に置き、「シ」と訓読する。中心の意味は可能を表すものであるが、ほかにもさまざまな意味を示すので注意が必要である。

①可能の意
客観的な状況や条件などにおいて、可能なことを示し「…できる」「…う」と訳す。▼「能」【220】
例「悪」二変が「善」に転ずる。【訳】悪は変えて善なものにできる(論衡 率性)

②許可の意
内容が十分であるとして許可や同意を示し「…してよい」と訳す。
例「公治長可」妻也【注】公治長は(娘を)嫁がせてよい(論 公治長)

③当然の意
状況や周囲の条件が当然そうすべきであることを示し「…すべき」「…しなればならぬ」と訳す。
例「王僚可」殺せ【注】王僚は殺さなければならぬ(史記 太史公)

④勧誘の意
周囲の状況からそうしたほうがよいと相手に勧めるもので「…するのがよい」と訳す。
例「可」急使守閨【注】急使は(急いで)閨谷関を守備せよ(漢書 高帝紀上)

⑤評価の意
様子や行動に価値や意義があると評価する意を示し「…に値する」「…に足る」と訳す。【後】の用法における一部の表現「可愛」「可憐」「可」が固定的に用いれて「可+動詞」全体が形容詞句となり「可」自体は形容詞の接頭語へ変化した。
例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

【可】(動)「可」+動詞の「以」が「可」と熟したものであるが、ふたつ前置詞「以」の目的語は省略される。「可+動」(も「可+動」)の形で「可」を分離して読む。
例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

【可】(動)「可」+動詞の「以」が「可」と熟したものであるが、ふたつ前置詞「以」の目的語は省略される。「可+動」(も「可+動」)の形で「可」を分離して読む。
例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

【可】(動)「可」+動詞の「以」が「可」と熟したものであるが、ふたつ前置詞「以」の目的語は省略される。「可+動」(も「可+動」)の形で「可」を分離して読む。
例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

【可】(動)「可」+動詞の「以」が「可」と熟したものであるが、ふたつ前置詞「以」の目的語は省略される。「可+動」(も「可+動」)の形で「可」を分離して読む。
例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

【可】(動)「可」+動詞の「以」が「可」と熟したものであるが、ふたつ前置詞「以」の目的語は省略される。「可+動」(も「可+動」)の形で「可」を分離して読む。
例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

み」によって「できる」のよう訳す。

例「浪浪之水清兮、可以濯吾纔」(楚辞 渔父)「浪浪の水が清いから、それで濯(は)うことができる。楚 漁父」

例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

【ハ】(名)「汗」可汗カハ、は、鮮卑ビ、柔然突厥ツ、回紇ハ、蒙古マ、北方民族の君の称号。【注】蒙古古語Khaŋan(皇帝)の音訳として「汗」。

【ハカ】助動詞として目的語と述語構造の動詞の前に置き、「シ」と訓読する。中心の意味は可能を表すものであるが、ほかにもさまざまな意味を示すので注意が必要である。

①可能の意
客観的な状況や条件などにおいて、可能なことを示し「…できる」「…う」と訳す。▼「能」【220】
例「悪」二変が「善」に転ずる。【訳】悪は変えて善なものにできる(論衡 率性)

②許可の意
内容が十分であるとして許可や同意を示し「…してよい」と訳す。
例「公治長可」妻也【注】公治長は(娘を)嫁がせてよい(論 公治長)

③当然の意
状況や周囲の条件が当然そうすべきであることを示し「…すべき」「…しなればならぬ」と訳す。
例「王僚可」殺せ【注】王僚は殺さなければならぬ(史記 太史公)

④勧誘の意
周囲の状況からそうしたほうがよいと相手に勧めるもので「…するのがよい」と訳す。
例「可」急使守閨【注】急使は(急いで)閨谷関を守備せよ(漢書 高帝紀上)

⑤評価の意
様子や行動に価値や意義があると評価する意を示し「…に値する」「…に足る」と訳す。【後】の用法における一部の表現「可愛」「可憐」「可」が固定的に用いれて「可+動詞」全体が形容詞句となり「可」自体は形容詞の接頭語へ変化した。
例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

【可】(動)「可」+動詞の「以」が「可」と熟したものであるが、ふたつ前置詞「以」の目的語は省略される。「可+動」(も「可+動」)の形で「可」を分離して読む。
例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

【可】(動)「可」+動詞の「以」が「可」と熟したものであるが、ふたつ前置詞「以」の目的語は省略される。「可+動」(も「可+動」)の形で「可」を分離して読む。
例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

【可】(動)「可」+動詞の「以」が「可」と熟したものであるが、ふたつ前置詞「以」の目的語は省略される。「可+動」(も「可+動」)の形で「可」を分離して読む。
例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

【可】(動)「可」+動詞の「以」が「可」と熟したものであるが、ふたつ前置詞「以」の目的語は省略される。「可+動」(も「可+動」)の形で「可」を分離して読む。
例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

【可】(動)「可」+動詞の「以」が「可」と熟したものであるが、ふたつ前置詞「以」の目的語は省略される。「可+動」(も「可+動」)の形で「可」を分離して読む。
例「可」可憐【注】可憐は「可」+「憐」で「可」は「可憐」(愛重 異者)

